

「令和5年度群馬県立自然史博物館活動の評価」について

群馬県立自然史博物館専門委員 中村修美

評価委員会でご説明いただいた内部評価結果に基づき、所見を述べさせていただきます。

博物館法の改正などもあり、これからの博物館の望ましい姿として「資料収集」「資料整理・保管」「調査・研究」「教育・普及(展示を含む)」という博物館活動の基盤を強化し、学術や科学技術の進展や文化の保護・創造に貢献するとともに、交流、市民参画・連携する学習支援機関としての役割の充実する、という考え方が提示されています。特に、「他の博物館との連携、地域の多様な主体との連携・協力による文化観光など地域の活力の向上への寄与」が強調されていますが、強弱はあれ、これまで各博物館の活動で既に行われてきたと私は思っています。

このような提案も考慮して、貴博物館の活動を拝見しますと、総体として内容は多様で活発な活動を行っているとは評価できると思います。

評価ではどうしても数値が対象となります。しかしながら、提示されている項目のすべてで目標値を上昇させることは難しいことですし、そもそも常に上昇する性格のものばかりではありません。実際、自らの活動によらない項目は「目標値設定はしない」となっていますが、これで良いと思います。ただ、どのような状況・数値かは把握しておく必要があります。

貴博物館では、中・長期の構想を設定していますが、これは非常に重要なことです。現在の活動が将来の目標へどの程度の到達度になっているか評価されていますので、それを日々の活動にフィードバックしていただき、博物館の人的、物理的キャパシティの中でどのように活動していくかを検討して博物館活動を進めていただければと思います。

個別の内容について、2点ほどコメントさせていただきます。

まずは、資料管理についてです。資料の管理・保存において燻蒸は重要ですが、燻蒸してもカビや資料に潜り込んでいる虫の除去は難しい場合があります。そのため、日常のIPM（Integrated Pest Management：総合的有害生物管理）が重要となります。害虫調査は展示室も含めて年に2回行っているとのことですが、全館を対象とした調査はそれでよいと思います。ですが、バックヤードや収蔵庫の調査は、年間を通しておこなうべきです。フェロモン型のトラップでは虫を引き寄せてしまう危惧もありますので、フェロモンを用いない粘着型のトラップで、年間を通して虫の発生や侵入状況を確認すべきだと思います。また、このトラップにより多少でも虫を除去することもできます。

次は、アンケートについてです。来館者のアンケートで高い満足度を得ていることは素晴らしいと思います。是非、今後も高い満足度を得られるように活動を進めていただきたいと思います。私が博物館職員として現役の時に、「来館した人は興味を持ってきている。その人たちのアンケートの満足度が高いのは当然で、低い満足度では問題がある。博物館の活動にとって、来館していない人の意識を確認することが重要では」と指摘されたことがあります。来館されていない人たちの意見・感想は、これまでとは違った視点が得られるかもしれません。どのようにアンケートを取るかは難しい点があると思いますが、石川委員のネット利用の例もありました。手法、内容については検討する必要がありますが、実施を考慮されては如何でしょうか。